

大の里横綱確実

連続優勝、昇進へ

能生中、海洋高出 最速、13場所で

大相撲の東大関大の里(24)＝本名中村泰輝、海洋高出、石川県出身、二所ノ関部屋＝が夏場所13日目の23日、13連勝で2場所連続4度目の優勝を決め、場所後の横綱昇進を確実にした。2023年夏場所の幕下10枚目格付け出し初土俵から所要13場所での横綱昇進は、輪島の21場所を更新し、年6場所制となった1958年以降初土俵の力士で最速となる。日本出身としては、17年初場所後に昇進した大の里の師匠でもある稀勢の里(現二所ノ関親方)以来、8年ぶり。



大相撲夏場所13日目、琴桜(左)を寄り切りで破り優勝を決めた大の里。横綱昇進を確実にした。23日、東京・両国国技館

日本相撲協会の諮問機関、横綱審議委員会(横審)の推薦内規には「2場所連続優勝か、それに準ずる好成績」とある。横審が50年5月に発足以降、2場所連続優勝の大関が昇進を見送られた例はない。26日の横審を経て、28日の名古屋場所番付編成会議と臨時理事会で正式に昇進が決まる。

大の里は石川県津幡町出身。能生中、海洋高に進み、中学、高校の6年間を過ごした糸魚川市で相撲の基礎を築いた。海洋高1年時に全国高校総体(インターハイ)の個人で準優勝。日体大に進学し、全日本選手権を連覇した。国民体育大会(現国民スポーツ大会)では、本県成年チームとして2大会連続で団体、個人2冠を達成した。

新横綱の誕生は、今年1月の初場所後に昇進したモンゴル出身の豊昇龍以来で令和3人目。